



文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」

清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト 通信



Event News

7月

10日(月) 岐薬大 トップマネジメントセミナー
中部電力におけるダイバーシティの取り組み
—「女性の活躍推進」～「多様な人材の活躍支援」に至る活動—
 時間：15:00～16:30 場所：岐阜薬科大学本部 第一講義室
 講師：三澤 太輔 氏 (中部電力株式会社 専務執行役員(秘書部・広報部・人事部総括) / 中電ウイング株式会社 社長)

11日(火) アビ(株) リーダーシップ研修 **自分らしく輝くための女性社員キャリア研修**
 時間：13:00～17:00 場所：アビ株式会社 本社 4階 大会議室
 講師：杉本 美晴 氏 (アット・ワンス株式会社 代表取締役)

英語セミナー **英語スピーキングトレーニングセミナー**
 「英語の知識はあるが話すのが苦手」「思ったことが上手くいえない」方におすすめのセミナーです。
 時間：10:00～16:00 場所：岐阜大学 情報館 会議室
 対象者：TOEICスコアはある程度あるが英語で話すことに慣れていない・自信がない方
 連携機関の教員、研究者、大学院生
 推奨レベル：TOEIC500～750 (幅広いレベルの方にご受講頂けます。)

7日(月) 英語セミナー **通訳者が教える「伝わる英語」セミナー**
 英語での講義をされる方、国際学会に参加される方におすすめのセミナーです。
 ただ単に直訳して話すのではなく、「よりの確に伝える」「感情も伝える」ためのテクニックを学んで頂きます。
 時間：9:00～14:00 場所：岐阜大学 大会館 共用第二会議室
 対象者：連携機関所属の研究者 推奨レベル：TOEIC700点～

8月

7日(月)～10日(木) 夏季休暇学童保育(カモミールこども大学)
21日(月)・22日(火)
 対象児童：連携機関に所属する教職員・社員の子ども(小学生)
 時間：8:00～18:00
 場所：岐阜大学柳戸会館、岐阜フィールド科学教育研究センター
 7日(月)～10日(木) (於 岐阜大学柳戸会館)
 ▼ 株ポピズによる学童保育
 (朝の会、夏休み宿題、自習、読書、岐阜大学生協食堂またはテイクアウトお弁当で昼食、製作、サイエンス等、帰りの会、掃除)
 21日(月) ◆ミツバチの出張講座 (byアビ株式会社) ◆岐阜大学教員による講座 ◆夏休みの宿題、自習
 22日(火) ★農場見学、ピザ作り (岐阜フィールド科学教育研究センター) ★岐阜大学教員による講座 ★夏休み宿題、自習

23日(水) アビ(株) フォーラム
 時間：13:30～15:00 場所：アビ(株) 長良川リサーチセンター 2階 大会議室
 講師：新谷 英子 氏 (カルビー株式会社 人事総務本部 ダイバーシティ委員会 委員長)

9月

14日(木) 岐女大 研究倫理研修 **科学の健全な発展のために(仮)**
 時間：15:00～16:00 場所：岐阜女子大学 本館3階 大会議室
 講師：笹川 光 氏 (自然科学研究機構 国立天文台 事務部長)

20日(水) 英語セミナー
 時間：13:00～ 場所：岐阜薬科大学本部 大学院講義室
 講師：斎藤 裕紀恵 氏 ((株) Y&S Visionary代表取締役)

28日(木) 岐女大 シンポジウム **研究力向上と「地方創生」(仮)**
 基調講演：研究力向上と研究不正(仮)
 講師：黒木 登志夫 氏 (日本学術振興会 学術システム研究センター 顧問)
 パネルディスカッション
 時間：15:00～17:00 場所：岐阜女子大学 新4号館 大ホール

※日時・内容などは変更する場合があります。https://diversity.gifu-u.ac.jp/に随時更新情報を掲載します。

【発行】 岐阜大学 岐阜薬科大学 岐阜女子大学 アビ株式会社

【問い合わせ先】 岐阜大学男女共同参画推進室
 TEL：058-293-3378 FAX：058-293-3396 Email：sankaku@gifu-u.ac.jp
 本誌は、「清流の国 輝くギフジョ支援プロジェクト」 URL https://diversity.gifu-u.ac.jp ホームページ上で公開しています。

1 2017(平成29)年度 連携型共同研究助成採択課題決定!

今年度も12件の課題が採択されました(代表者の内訳は岐阜大学6件、岐阜薬科大学3件、岐阜女子大学1件、アビ株式会社2件)。
 昨年度から継続採択された課題もあり、新たに採択された課題もあります。

代表者(所属・職名)	研究課題	共同研究者(所属・職名)
杉山 陽子 岐阜大学 大学院 医学系研究科・特任准教授	持続硬膜外フェンタニルの鎮痛効果および忍容性に関する研究 —薬物動態・薬物感受性関連遺伝子多型解析および 薬物血中濃度測定を用いた解析—	曾田 翠 岐阜薬科大学 薬物動態学研究室・助教
鈴木 紀子 岐阜大学 大学院 医学系研究科・研究員	新規難治性子宮頸癌治療法の確立を目指す 鉄依存性細胞死の研究	森 美奈子 岐阜大学 医学部附属病院・医員 森重 健一郎 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授 平山 祐 岐阜薬科大学 薬化学研究室・准教授 永澤 秀子 岐阜薬科大学 薬化学研究室・教授
柳瀬 笑子 岐阜大学 応用生物科学部・准教授	高機能性野菜の開発を指向した生育環境の 改善と食品加工法の開発研究	笠井 恵里 岐阜女子大学 家政学部・講師
柴田 早苗 岐阜大学 応用生物科学部・准教授	プロボリス抽出物を含有する 動物用創傷保護材の実用化に向けた研究	小野寺 理沙 岐阜薬科大学 製剤学研究室・助教 荒木 陽子 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・製品開発顧問 川部 美史 岐阜大学 応用生物科学部・助教 高島 諭 岐阜大学 応用生物科学部・助教
中川 千春 岐阜大学 応用生物科学部・研究員	可溶性(プロ)レニン受容体産生に及ぼす プロボリスの影響	上原 沙織 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任 中川 貴 岐阜大学 応用生物科学部・准教授
小山 真紀 岐阜大学 流域圏科学研究センター・准教授	研究領域を横断する対話の場と協働に基づく 「生きづらさ学」の共有と発展	大崎 友記子 岐阜女子大学 家政学部・教授 船越 高樹 岐阜大学 障害学生支援室・特任助教 相原 征代 岐阜大学 男女共同参画推進室・特任助教
伊野 陽子 岐阜薬科大学 薬局薬学研究室・講師	多職種連携による薬局薬剤師の地域住民への 健康サポートに関する研究	加納 亜紀 岐阜大学 保健管理センター・助教 寺町 ひとみ 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・教授 堺 千紘 岐阜薬科大学 薬局薬学研究室・助教 館 知也 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・准教授 野口 義紘 岐阜薬科大学 病院薬学研究室・助教
水谷 有紀子 岐阜薬科大学 化粧品健康学講座・特任准教授	初代培養ヒト皮膚細胞を用いた喫煙の肌状態に 与える影響の評価について	古山 浩子 岐阜大学 工学部・助教 石塚 麻子 岐阜薬科大学 化粧品健康学講座・嘱託職員 井上 神太郎 岐阜薬科大学 化粧品健康学講座・特任教授
辻 美恵子 岐阜薬科大学 薬化学研究室・助教	がん微小環境における酸化ストレス応答系を 標的としたがん細胞選択的な 化学療法/放射線治療増感剤の開発に関する研究	野澤 麻枝 岐阜大学 医学部附属病院・助教 松尾 政之 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授 森 崇 岐阜大学 応用生物科学部・教授
伊佐 保香 岐阜女子大学 家政学部・講師	冷凍技術の向上とビタミンB6損失抑制の検討	勝野 那嘉子 岐阜大学 応用生物科学部・助教 西津 貴久 岐阜大学 応用生物科学部・教授
新井 靖子 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・研究員	ローヤルゼリーのアレルゲン性に関する 基礎的研究	清島 真理子 岐阜大学 大学院 医学系研究科・教授 高橋 智子 岐阜大学 医学部附属病院・助教 秦 健敏 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任
森本 智美 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・主任	プロボリスエキスおよびハチミツの口腔内細菌に対する 作用に関する研究	田中 香お里 岐阜大学 大学院 連合創薬医療情報研究科・教授 田澤 茂実 アビ株式会社 長良川リサーチセンター・係長

2 学生から見た「女性研究者」像～女子大生へ逆インタビュー

このコーナーでは女子学生による女性研究者へのインタビュー記事を2度ほど連載してきましたが、3回目の今号では少し趣向を変えて、研究者を目指す(または目指すかどうか迷っている)お2人のリケジョにお話を伺いました

インタビューにご協力くださったお2人の紹介

Aさん 岐阜大学 工学部 3年

好きな食べ物 シナモンがたっぷりかかったドーナツ
好きな音楽 IUのPalette
ミシェル・オバマのスピーチに勇気をもらいました!



Bさん 岐阜大学 応用生物科学部 2年

好きなもの 紅茶、日向ぼっこ、いぬ、ねこ、文具店・雑貨店
雑貨や文具は、用がなくてもつい見ている。



Q.将来のビジョンについて教えてください。

A:将来について考える内に自分でもよく分からなくなっています。今は、自分の専攻分野を活かして研究職として企業に就職するか、将来家庭を持って続けやすい事務職公務員としての就職を目指すかですごく迷っています。専攻分野を活かせる公務員となると、枠は少なく、その分野での可能性はなかなかないです。

B:今は2通りのビジョンを考えています。1つは生化学の勉強を続けて大学院に進学し、その分野に関係するところで就職することです。ただ、ジェンダー学も勉強したいなと思っていて、生化学専攻で大学院に行きながらも、ゼミに混ぜてくれる先生を見つけたら、自分で本を読んだりして、個人的に続けていくという方向です。もう一つは逆にジェンダー学を自分の専攻にしてしまっ、理系の道は学部まで、または修士までで終えてしまおうかです。いろいろな先生とか院生の方の話を聞いて、私がより進みたいのはどちらなのかを探っているところです。

理系の修士に進むのであれば、その後は大学の教員を目指してポスドクになるか、研究所等に就職するかですね。

Q.お2人ともご両親は協力的なんでしょうか?

B:母親は「おまえの好きにしろ」というスタンスですが、親戚や祖父母がそうではないです。私が勝手なことをしていると、母が祖父や叔父・叔母から責められたりしているのかと思うと、ちょっと考えてしまうところがあります。

A:確かに、うちの祖父もそういう考えは強いかもしれませんが、それが障害ではないです。別に何とも思われてもいいし、母も、私に成功してほしいという希望の方が強いと思うので、家族からのプレッシャーを受けてはいないと思います。

Q.でも、時々親御さんとの間にジェネレーションギャップを感じることはないですか?

A:あります。母は企業に勤めていたんですが、結婚を機に仕事を辞めて、専業主婦になりました。子育てをして、家事をしてという生活を普通にしているのを見ると、「変だな、なんで女性だけ?」と思う生き方で、母にとってはそれが普通だから、価値観が違うことも多く、母に悩みを相談しづらいです。

B:親は好きにしていよと言ってるけど、たぶん内心期待しているのは、結婚して子どもを持つことなんですよ。この間も将来について何気なく話していて、「おまえの人生は結婚で変わっちゃうんだから」とか、「その頃までは結婚して子どもを持ってほしいから」という言葉が、すると、何の疑問もなく出てくることがありました。やっぱり、女の幸せは結婚であり、子育てでありたいなところがあって、それにこっちはびっくりするんですよ。

Q.クラスメートや家族以外に、将来のことで相談できる場所が必要だと思いますか?

A:身近なロールモデルがとて少ないので、自分と近い悩みや問題を抱えている人を見つけにくいというのは問題です。例えば、大学院の女性の先輩に相談したら、その人は迷わず進学を決心していて、同級生の友達も、就職があればしようという感覚で…、どちらも進学か就職かで悩んでいませんでした。女子が少ないので、そこで悩んでいるのが自分だけのよう気がしてきます。サンプル数が少なすぎます。就職して、彼氏を作ってというところで話しが止まってしまうんです。その先を切り出せなくなってしまっ…。

今回のお2人の学生さんのお話を伺っていて感じたのは、真剣に将来について考えるからこそ、迷いや悩みを抱えているということでした。現状の大学制度では、就活そのものの支援体制は整備されていても、その先のことを真面目に考える学生さんに対して開かれた相談窓口はまだ整備されていません。ただし、お2人も組織的な窓口がなくても、いろいろな経験談をいろいろな先輩から聴くことが助けになると話していました。また、Aさんが感じているように、日本の若者の間には、政治や社会問題について議論することに抵抗感や照れがあるようですが、一方で、そういう議論を「普通に」できる環境に憧れる若い人も少なからず存在しています。学生さん同士や、教職員と学生さんが、気軽に交流できるような体制を整えることが、今の大学にできることかもしれません。

3 平成29年4月～平成29年6月の主な活動

4/14

岐阜大

リーダーシップ研修

企業とアカデミアでの研究生活を体験して～アクアポリンの機能と分子標的創薬への展開～

講師の竹馬 真理子氏(慶応義塾大学医学部薬理学教室 講師)は、岐阜薬科大学を卒業後、華やかな世界に憧れて化粧品会社に入社しましたが、初任給は大卒男性の半額程度という扱いだったそうです。もともと研究をやる気はなかったものの、配属先は化粧品開発のための基礎研究のグループでした。人事部からは「研究業務が向いている」と言われ、嫌々ながらも頑張ってきた。ところが、入社12年目にチームで開発した商品が大ヒットしたのです。これをきっかけに研究が楽しくなってきたといいます。その後、会社に在籍しながら米国カリフォルニア大学医学部へ留学します。女性では初めての快挙で、当時の男性上司の理解と後押しのおかげだそうです。帰国後は母校で博士号を取得し、退職。そして、ポスドクとして再度留学されました。その後、帰国し、京都大学任期付研究員を経て、現職に就任しました。

企業と大学の研究環境の違いや特徴についても、自身の経験をもとにお話がありました。「主観的だが」と前置きをした上で、次のような考えが述べられました:研究の目的が営利的かそうでないか、主にチームによる成績か個人の業績か、テーマの選択に自由度があるかないか、また研究費は会社から与えられるか自分で獲得しなければならないかなど、どちらにもメリット、デメリットがあります。

現在は元同僚の外国人研究者を研究補助員として雇いながら、彼女が独り立ちできるよう支援をして見守っています。ここからも、自分の研究活動だけでなく、研究チームをまとめながら最終的にはメンバー一人一人がPIとして活躍できるようにという考慮から、リーダーとしての心構えを学ぶことができました。女性が研究活動に貢献できるようになれたらいいと願い、自身も精進されている様子が窺えます。

アクアポリンに関する研究の最新の成果についても詳しくお話があり、出席者は熱心に聴き入っていました。大学と企業とは研究の進め方も異なることを知り、企業での研究と大学での研究の両方を体験した講師のお話は、将来のキャリア形成を考える者には有意義な内容でした。また、研究者としてのリーダーシップ育成に関する意識啓発にもつながるものと感じました。



5/15

2017年度

連携型共同研究採択者説明会

今年度の連携型共同研究採択者向けの説明会を行い、本事業の目的(女性研究者の研究力向上)を確認し、経費執行上の注意を喚起しました。この共同研究支援制度は単年度ごとに募集していますが、今年で3回目の支援となる研究もあり、その研究成果が、今後、特許や本の出版などの形に繋がる研究も出てきました。経費を確実に執行し、実りある研究成果を上げていただけることを願っています。



5/20

英語セミナー

英語科学論文読解セミナー

岐阜大学サテライトキャンパスにてセミナーを開催し、21名の受講者の方に集まいただきました。英語科学論文読解に特化した内容でのセミナーは初めての開催でしたが、受講者の方々は、「読む」という、研究活動をする上で基礎的な知識を学ぶことができたのではないのでしょうか。4つの機関の中には、様々な研究者・研究者の卵たちがいて、英語のレベルや学びたい事柄も多様ですが、本事業では、本年度も論文の書き方や、英語プレゼンテーション法など、様々な内容のセミナーを実施していく予定です。



6/1

岐阜大

トップマネジメントセミナー

トランスボーダー社会における女子教育～世界で輝く女性のカ～

6月1日(木)に岐阜大学創立記念講演として、お茶の水女子大学の室伏さきみ子氏が「トランスボーダー社会における女子教育～世界で輝く女性のカ～」について講演をされました。女性研究者支援の観点からも重要な講演であり、本事業のトップマネジメントセミナーとしても取り扱うこととしました。

お茶の水女子大学は歴史も古く、1875年に日本初の女性のための高等教育機関として、国によって設置されました(当時・東京女子師範学校)。創設以来、優れた教育者、研究者、技術者等を育て、社会に輩出しており、講演の最初には、戦前に留学などの経歴を積み、めざましい活躍をした卒業生の紹介がありました。

世界を舞台にグローバルに活躍しようという、この精神は、現在も同大学内に引き継がれており、多くの女子学生が世界の大学・研究所に送り出され、また、世界から女性研究者をお茶の水女子大学に受け入れています。室伏氏は、特にご自身がフランスとの懸け橋となって設立した日仏共同博士制度について詳しく説明されました。多くの日仏女子学生の交換・交流の結果、これらの学生が両国で学位を取り、活躍しています。芝浦工業大学とNIMS(国立研究開発法人 物質・材料研究機構)と連携して行っている文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(連携型)」にも触れられ、お茶の水女子大学から輩出された女性研究者が、国内外でグローバルな活躍をされていることがよくわかる講演であり、岐阜大学が代表機関となり、岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社とともに取り組んでいる、本事業についても多大の教示を得ることができました。

